

No. (13) 平成30年度 地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業成果報告書

事業名称	若者・子どもたちとともに博物館が南相馬を元気にするプロジェクト		
実行委員会	地域創生の核となる博物館実行委員会		
中核館	南相馬市博物館		
	住所	〒975-0051 福島県南相馬市原町区牛来字出口194	
	TEL	0244-23-6421	FAX 0244-24-6933
	ホームページ	https://www.city.minamisoma.lg.jp	
構成団体	南相馬市博物館・こどもひかりプロジェクト・九州国立博物館・兵庫県立考古博物館・仙台市縄文の森広場・兵庫県立人と自然の博物館・ふくしま海洋科学館		
事業開始時点の課題分析	<p>福島県南相馬市の人口は東日本大震災を契機に大きく減少し、将来推計においても回復は見込めない状況である。また、市内には大学がないため、青年層の多くは都市圏に出て行ってしまふ。これは、多くの地方都市の将来を先取りしているともいえる。そのような状況下、南相馬市は市を取り巻くさまざまなピンチを逆にチャンスととらえ、未来の南相馬を担う確かな人材の育成を目指そうとしている。平成28年度と29年度の2ヶ年において、地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業の補助をいただき、若者特に地元高校生との連携には大きな意義があること、小さな子どもたちを対象としたプログラムは多くの支持が得られることがわかり、地域の核となり、地域と協働した博物館を目指すにあたっての手応えを得ることができた。</p> <p>この成果を発展させていくため、次のステップとして、博物館から地域社会へ出て行くアウトリーチ活動に取り組みたい。博物館・美術館は、展示や講座を通じた専門的な知識の提供を得意としているが、その内容に関心を持つ対象者は、専門性が高まるにしたがって、少なく（低密度に）なる。したがって、博物館の専門性にあまり関心のない多くの地域住民にとって、博物館は敷居の高い、距離の遠い存在となりがちである。結果として、博物館の存在意義が地域住民に理解されず、特に住民（納税者）との距離が近い市町村立の博物館では、このことは深刻な問題である。</p> <p>博物館の専門性を活かしながら、専門的事項への関心の乏しい地域住民に、どのようなサービスをどのように提供すれば効果的なのか、さらに地域住民といっしょに考えていくには博物館はどうすればよいのか。これは、南相馬市博物館のみならず、地域貢献が求められる全国の地方博物館に共通する、重要な課題となっている。</p>		
事業目的	<p>地方都市の小規模博物館をモデルに、博物館が地域の核となり、地域社会全体が元気になるシステムを構築することが本事業の大きな目的である。そのために本事業では、①人の育成（若者との連携）、②コンテンツ（小さな子どもたちを対象としたプログラム）の開発、③場の開拓、この3つの柱に沿って、開発と実践を行う。</p> <p>①②については、これまでの補助事業で培ったノウハウをさらに発展させ、③地域社会へのアウトリーチ活動への取り組みを開始する。既存の収蔵資料をそのまま地域に持ち込んでも支持は得にくい。まずは小規模なミニフェアを実施し、博物館にあまり関心のなかった地域住民の声を直接聞いてニーズに応じたプログラムを開発・提供し、新規来館者の期待に応えるコンテンツを提供できなければならない。ミニフェア活動を通じてプログラムを開発するとともに、指導のノウハウを蓄積する。</p>		

<p>事業概要</p>	<p>相互に関連する3つの事業ユニットで構成した。</p> <p>1. 「南相馬ミュージアムユース」の育成</p> <p>対象は南相馬市出身の大学生と、市内の高校生。募集は夏に行い、博物館の保有する資料や立地環境を活かしたワークショップの企画運営の実際、子どもたちとの接し方等について、「ミュージアムキッズフェア」に向けて研修を行った。</p> <p>2. 幼児と低学年児童を対象とした「ミニフェア」</p> <p>小さな子どもたちに「歴史」の説明は難しい。博物館の持つ専門的な資料を小さな子どもたち向けに「翻訳」し、楽しい体験型プログラムを開発、実施した。平成30年度は主にコンテンツの開発と小規模なイベント3回の試行を行った。</p> <p>3. 幼児と低学年児童を対象とした「ミュージアムキッズフェア in みなみそうま」</p> <p>これは、博物館ではなく市内の施設にて開催した。全国のミュージアムの参画を得て、それまでに育成した「南相馬ミュージアムユース」たちが主役となり、3回の「ミニフェア」で経験したワークショップ指導のノウハウを活かして、地元の子どもたちを迎えた。</p> <p>南相馬市博物館が中核館となることで、国立や県立の博物館ではできない、地域社会と直に向き合うことができた。南相馬市博物館単独では不可能な事業であったが、アウトリーチ活動や地域連携活動に関して先駆的かつ大きな実績を上げている館や団体にアドバイスと参画をいただいて実現できた。</p>
<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館</p> <p><input type="checkbox"/>ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携</p> <p><input type="checkbox"/>イ ユニークベニューの促進</p> <p><input type="checkbox"/>ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館</p> <p><input type="checkbox"/>エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信</p> <p>(2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成</p> <p><input type="checkbox"/>イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施</p> <p><input type="checkbox"/>エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業</p> <p>(3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動</p> <p><input type="checkbox"/>イ 文化財の新たな保存管理・活用手法の開発</p>
<p>施後の 成果・効果等</p>	<p>1. 長期的目標</p> <p>3回の「ミニフェア」及び「ミュージアムキッズフェア in みなみそうま」で、子どもたちは博物館のスタッフやコンテンツに接して目を輝かせていた。子どもたちは帰宅後、家族に楽しい体験を話し、父母や祖父母とともに博物館を訪れて楽しい時を過ごした子もいた。今後、子どもたちのそんな姿が日常的な風景となり、地域住民にも地域に貢献する博物館の姿が浸透していくことを期待したい。10年も経てば、成長した子どもたちは、高校生となってスタッフとなり、さらに次の世代へバトンが受け継がれ、博物館を核として地域全体が元気になるようなサイクルを確立していきたい。</p>

2. 単年度の成果・効果

(1) 定数的評価

ユースの育成：「ミューキッズフェア in みなみそうま」では、南相馬ミュージアムユースは、仙台市を中心に大学生等 11 人、地元高校生 11 人が参加した。

キッズフェア：「ミューキッズフェア in みなみそうま」では、市内外（南相馬市 77%、相馬市と新地町計 15%）から延べ 1,185 人の子どもと保護者が来場した。これは南相馬市の保育園・幼稚園児（計 1,380 人）と小学 1 年生（324 人）（合計 1,704 人）の約 7 割。（南相馬市の平成 30 年度の小学校児童数は 2,089 人、大学・短大等進学率は約 30%）
（詳細は来場者アンケート集計表及びグラフ、統計資料参照）

(2) 定性的評価

①ユースの育成

大学生ユースには各担当ブースで幼児向け工作等のワークショップ指導をしてもらった。彼女たちはこれまで南相馬市で何度か開催したキッズフェアや今年度新たに行ったミニフェアでの指導経験から、自ら改善点を見出して上手に対応していた。また、まだ不慣れな高校生ユースに対しては自分たちの指導・対応を先輩として背中を見せていた。彼女たちは子どもたちと楽しく触れ合いながら、自らも実践を通じて幼児教育の指導法を学び、成長していると感じられた。（別紙、ユースの感想参照）

高校生ユースは何度か参加している生徒もいて、大学生ユースへの芽が育ち始めていると感じられた。

②キッズフェア

大きなイベント「ミューキッズフェア in みなみそうま」では、小さな子どもと保護者、迎え入れる仙台在住を中心とした大学生と南相馬の高校生が、博物館を飛び出して体育館でふれあった。知的好奇心に満ちた子どもたちのキラキラした表情と若者たちの生き生きとした姿は、未来の南相馬の可能性を強く示唆し、地域の人々の心を明るく照らしてくれた。南相馬市博物館での成功は、全国の地方博物館や、震災からの復興の困難に直面する自治体、過疎化に悩む多くの自治体にとって、博物館を中核とした人材育成のモデルとして、波及するものと思われる。（別紙、来場者アンケート参照）

③その他（成果品及び配布物）

「ミューキッズフェア」来場者及び市内の保育園・幼稚園・小学校等に配布した「みなみそうま ミューキッズ」（マップ）は、一昨年度は子どもたちが博物館と博物館を取り巻く公園を散策して観察に利用できるマップとし、昨年度は子どもたちが博物館の展示見学に利用できるマップとした。今年度は展示室マップと連携して市内の自然観察・史跡見学に利用できる場所のマップとした。この 3 種のマップを制作・配布したことで、子どもたちが博物館デビューするきっかけとなったと思う。

また、「ミューキッズフェア」のワークショップで子どもたちが横穴古墳（羽山横穴）の創作ものがたりと歴史的建造物（今村醤油店・油屋）のお話を聞いて、ペーパークラフトを作ったことで、文化財への理解と関心が生まれ、地域の魅力の発掘・発信につながったと思われる。（成果品参照）